

二〇〇二(平成十四)年度の大分県地方史研究会・総会は六月九日(日)午前一〇・〇〇から大分県立図書館第二・三研修室で開催。例年六月第一日曜日を開催日としていたが、本年は他の行事との関係で第二日曜日となった。長田弘通委員の総合同会で進行、午前中は会員による研究発表、午後は総会と公開講演で、一六・〇〇前に閉会した。参加者約六〇名。

大会の概要は以下のとおりである。

(一) 会員研究発表(一〇・〇〇〜一二・〇〇)

内田鉄平(別府大学大学院生)

「女性筆頭人から見る家意識

―豊後国日田郡五馬市村を素材にして―

梅野敏明(大分県立図書館)

「大友氏領国における『御公領』について」

鹿毛敏夫(大分県立先哲史料館)

「大友時代の研究とその普及」

今回は若手の研究者による発表で、今後の研究に期待したいテーマもあったが、いずれも意欲的で充実した内容であった。

た。なお、現在話題となっている大友府内町遺跡の発掘調査の報告をという声もあったが、これは次回以降にゆずることとなった。

(二) 総会(一三・〇〇〜一三・四〇)

豊田寛三会長のあいさつに引き続き、第一九回大分県地方史研究奨励賞の発表、表彰式が行われた。今回は一八三号に「戦国期における城誘―城誘に関する一分析 その二―」を発表した三重野誠氏(大分県立先哲史料館主任研究員)が受賞。同氏は、戦国期大友氏を中心とした中世史の研究を専門とする若手の研究者であり、今回対象となった論文以外にも『大分県地方史』に多くの論文を発表している。例えば、「戦国期大友氏の領国経営 一・二(一三九・一四〇号)」、「大友氏研究の一視角」(一四一号)、「城誘に関する一分析―戦国末期の大友領国を素材として―」(一四三号)、「大友氏の守護職に関する一試論」(一五〇号)がある。いずれの論文も、広範な史料収集、丹念な史料分析に裏付けられた研究であり、大友氏研究の骨格をなす研究として評価されたものといえる。今後の活躍が大いに期待される。

議事は小野英治氏(弥生町)を座長に選出し、一ノ六号議案

を審議した。

- 一、二〇〇一(平成十三)年度事業・会計報告とその承認
- 二、委員の改選及び二〇〇二年度委員会体制について
- 三、二〇〇二(平成十四)年度事業計画案について
- 四、二〇〇二(平成十四)年度会計予算案について
- 五、大分県地方史研究奨励基金運用規程の改正について
- 六、その他

一号議案については事務局側から提案があり、全会一致で承認された。ついで加藤泰信監事から、会運営は適正に行われている旨の監査報告があった。

二号議案については事務局から、永年会運営に御尽力のあった小玉洋美・後藤正二・佐藤満洋三氏の退任、真野和夫・秦政博・若杉昌昭・鳥井裕美子・平井義人・武富雅宣・三重野誠各氏の新任、その他の委員については留任とする旨の提案があり、了承された。その結果をうけ、二〇〇二年度の委員会体制は次のように決定した。

- 顧問 秋月睦男
会長 豊田寛三
委員 飯沼賢司

委員

小泊立矢・長田弘通・後藤宗俊・佐藤晃洋・渋谷忠章・櫻井成昭・末広利人・田中裕介・段上達雄・長野浩典・安田晃子・真野和夫・秦政博・若杉昌昭・鳥井裕美子・平井義人・武富雅宣・三重野誠

〔総務〕 運営：小泊立矢・真野和夫

会計：長田弘通・田中裕介

〔編集〕 佐藤晃洋・武富雅宣

〔研修〕 三重野誠

〔監事〕 吉田豊治・加藤泰信

三号議案については事務局の報告・説明を受け、承認を得た。その中で機関誌の発行は、会員の減少化(現会員数二九七名)による財政難等を踏まえ、年四冊を三冊にする、部数は各号四〇〇部(現四五〇部)とする、頁数は九〇頁(現八〇頁)とするとの説明があった。

研究活動は従来どおり毎月第二土曜日に三部会のローテーションで実施。責任者は次のとおり。

- 古代・中世史部会 三重野誠
近世史部会 平井義人

四号議案は事務局の報告を受け、承認を得た。
五号議案については次のような改正案の提案、理由の説明があり、承認された。

(改正案)

現行 副賞金は基金の果実をもってあてる

改正案 副賞金は基金をもってあてる

(改正理由)

現在、「基金の果実」すなわち運用利子のみでは副賞金を捻出できず、基金全体から副賞金を支出せざるをえないため。

第六号議案については、次の二件の説明があった。

一、事務局設置場所及び組織の再検討について

現在事務局は「大分大学教育福祉科学部国史研究室内」となっているが、実態をともなっていないため検討を要する。また会員の高齢化、減少化傾向に伴う財政難を踏まえ、運営組織及び財政の再構築が必要。そこで、今年度委員会内に事務局検討委員会・組織検討委員会・財政問題検討委員会を設け、来年度の総会に新組織・事業案を提案。

二、五〇周年記念事業について

本会は一九五四(昭和二十九)年六月に発足、二〇〇四(平成十六)年に満五〇年となる。そこで五〇周年を祝う事業を実施したい。いずれも、今後の会のあり方に關する重要な問題を含むので、事務局で十分な検討を重ねることとなった。

(三) 公開講演(一三・五〇一―一五・三〇)

国東町歴史体験学習館長金田信子氏が「国史跡・安国寺集落遺跡の保存と活用」のテーマで講演。安国寺遺跡の特色、整備の経緯、整備の基本理念、地域における遺跡公園の果たす役割等について、スライドを交じえて解説。永く町の歴史・文化財の調査・研究にたずさわってきた講師の話だけあり、分かりやすく説得力のあるものであった。

(小泊)